様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月 １６ 日現在

機関番号：１２４０１
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2014～2017
課題番号：２６２８４０４５

研究課題名（和文）ロシア文化学の構築―国際共同研究に基づく創出的アプローチ

研究課題名（英文）Structuring Russian Culturology: An Approach on the International Research Cooperation

研究代表者
野中　進（NONAKA, Susumu）

埼玉大学・人文社会科学研究科・教授

研究者番号：６０３０１０９０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　11,400,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究「ロシア文化学の構築―国際共同研究に基づく創出的アプローチ」は、ソ連崩壊後、ロシア研究で重要な役割を果たすようになった文化学（文化研究）について、その最新の動向・成果をサーベイするとともに、自らもそうした観点からの研究を行うことを目的とする。文学、芸術、思想、宗教文化を主な研究分野にして、ロシア文化の特徴を明らかにすることに努めた。
　研究を進めるに当たっては、海外の研究者・拠点との連携強化を重視した。ロシアの中心都市は勿論、シベリア、旧ソ連諸国（ウクライナ、アルメニア、カザフスタン）、東アジア（韓国、台湾）とのネットワークを形成した。その成果は国際セミナーと二冊の国際論集に結実した。

研究成果の概要（英文）：　The research project "Structuring Russian Culturology: An Approach on the International Research Cooperation" is focused on Russian culturology or cultural studies, which plays an important role in Russian Studies especially after the collapse of Soviet Union. Focusing on literature, arts, philosophy and religion, we did a research in characteristic of Russian culture.
　Pursuing the project, we made a point of developing and diversifying the research relationship with internatinal researchers and institutions. We succeeded in making a network with researchers and institutions not only of Moscow and Petersburg, but also of Siberia and Far East Russia, Former Sovies countries (Ukraine, Armenia, Kazakhstan), East Europe (Serbia), East Asia (South Korea, Taiwan). This network has made it possible for us to publish two international books on Russian culture, the results of many international seminars we organized in the course of the project.

研究分野：ロシア文学、ロシア文化、文学理論

キーワード：ロシア　文化学　文化研究　国際交流　東アジア

１．研究開始当初の背景

ソ連崩壊 20 年を経て、ロシア文化とその研究（文化研究、文化学）のあり方がますます大きな変化を遂げつつあった。マルクス主義や東西対決の図式が崩れたことは当然のこととして、以前は確固たる意味を持っていた「境界／越境」や「体制／反体制」「ロシア文化／外国文化」「保守／革新」等の区分もその意味をまったく変えるに至った。そのような状況・問題意識を踏まえて、研究代表者・分担者は論集『ロシア文化の方舟』(2011)、『いま、ソ連文学を読み直すとは』（2012）を発表してきたが、さらに研究を発展させ、とくに国際的な研究ネットワークを作り、研究の質・量・範囲を広げることが期待されていた。

ロシア本国でも、欧米でも、ロシア社会の変貌に応じた「新しいロシア文化学」の構築がそれぞれに進められている。そしてまた、日本のロシア研究も独自の「新しいロシア文化学」の構築に取り組み始めている。いわば、「ロシア文化」を主題にして、かつてなく大規模な学術的対話が世界で進められているのである。

２．研究の目的

前項の背景を踏まえ、研究代表者・分担者が注目したのは「文化学」という枠組である。従来の文学研究、芸術研究、思想研究の枠を越え、学際的なアプローチによって、従来の研究成果を生かしつつ、ロシア文化についてより総合的な知見をもたらすべく、20 世紀末からロシア、欧米で積極的に用いられるようになった研究方法である。

我々はこの研究方法を用いると同時に、この研究方法そのものの思想的・学問的前提の再検討が必要であると考えた。というのも、とくにロシアの文化学の発展には国家イデオロギーの影響が認められ、西欧のロシア文化研究とは方向性の違いが指摘されているからである。その一方で、ロシア革命以前の知的伝統の復活、ソ連時代に「異論派」的な位置にあった記号論（ユーリー・ロトマン等）の正統化、1990 年代以降の西欧の思想・研究の流入など、きわめて複雑な様相を呈しており、重要な研究対象となっている。

このようにして、本研究プロジェクトの研究目的をあらためて定式化すると、「ソ連崩壊後、ロシア・欧米などで役割を増している文化学（文化研究）について、その最新の成果をサーベイしつつ、その方法論と知的背景について検討を行うこと、また自らも、この方法論を用いてロシア文化研究を行うこと」となる。

３．研究の方法

本研究では、ロシア文学、芸術、思想、宗教文化について研究している研究者の領域横断的な研究チームによって行った。また、国際的な研究ネットワークの構築を目的の一つとしており、モスクワ、ペテルブルグ、シベリア、ウクライナ、アルメニア、カザフスタン、セルビア、韓国、台湾等のロシア文化研究者・拠点との研究協力を推進し、各国のロシア文化学の比較・対照・対話を行った。

４．研究成果

以上の研究目的と方法に基づき、以下のような研究成果を挙げた：

（1）1990 年代以降のロシアにおける「ロシア文化学」について、その前提となっている思想・制度面の特徴を一定程度明らかにした。とくにその二面性（国家と社会）の背反と相関の重要性と諸相を明らかにした。

（2）今日のロシア文化像にますます大きな影響を及ぼしていると思われるロシア革命以前の知的伝統（宗教哲学、象徴派文学など）の諸相を明らかにした。とくに、ソ連時代は（公式的には）圧殺されていた宗教的伝統、あるいは 19 世紀末から急速に発展していた大衆メディア、そしてロシア革命後、1930 年代まで生き延びていたモダニズム的・アヴァンギャルド的潮流などの諸要素について研究を進めた。

（3）現代ロシアの生活文化・イデオロギーには、ソ連時代のそれがいまだに色濃く残っている。こうした要素について研究を行った。とくに、映像文化（映画）、大衆文化、スポーツ文化、言語文化などについて、ソ連時代の生活と現代ロシアのそれとの連続関係を明らかにした。

（4）以上の研究を進めるに当たって、国際的な研究ネットワークを活用し、複数回の国際研究セミナー、二冊の国際論集の出版を行った。こうした国際的催しでは、我が国の若手研究者を積極的に登用した。その点でも、次世代につながる重要な研究成果であると思われる。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 21 件）

（1）　Сусуму Нонака, «Как выражение получает свою форму и утешает человека. К одному мотиву в письмах А. Платонова», Философский полилог. Вып. 1 (2017). С. 111—125.［野中進「表現はいかに形を得て、人を慰めるか—アンドレイ・プラトーノフの手紙の一節によせて—」『フィロソフスキー・ポリローグ』、1 (2017), pp. 111—125］【査読有】

（2）　Сусуму Нонака, «Запас лиризма»: К жанровой соотнесенности стихов и прозы Андрея Платонова», Е.А. Яблоков (ред.). *Поэтика Андрея Платонова. Сб. 3. «Скрытая теплота революции»*. М.: Полимедиа, 2017. С.

90—103. ［野中進「抒情のストック：アンドレイ・プラトーノフの詩と散文の相関によせて」エヴゲーニー・ヤブロコフ編『アンドレイ・プラトーノフの詩学 第3集：「革命の密やかな熱」』モスクワ：ポリメディア社、2017年、90—103］【査読有】

（3） Сусуму Нонака, «Платонов между реализмом и модернизмом: сравнение как конструктивный принцип романа», Н. В. Корниенко (ред.) *"Страна философов" Андрея Платонова: проблемы творчества. Выпуск 8. Андрей Платонов и его современники. Исследования и материалы* / Отв. редактор. Н. В. Корниенко. М.: ИМЛИ, 2017. С. 176—182. ［野中進「リアリズムとモダニズムの間のプラトーノフ：長編小説の構成原理としての直喩」、論集『アンドレイ・プラトーノフの「哲学者の国」: 創作の諸問題』第8集、176—182、モスクワ: 世界文学研究所。］【査読有】

（4） Grecko Valerij,「ローカルとユニバーサルの間で－1910年から1920年までのグルジアのアヴァンギャルド」【ロシア語】、『Slavistika』（東京大学大学院人文社会系研究科スラブ語スラブ文学研究室年報）32号（2017）、247—257.【査読有】

（5） 中村唯史、「ヤコブソンの影：ソ連記号学の系譜における「実体－言語－体系」の問題試論」『Slavistika』（東京大学大学院人文社会系研究科スラブ語スラブ文学研究室年報）32号（2017）、19—40.【査読有】

（6） 中村唯史、「ワシーリー・グロスマン小論（前）：身体・機械・自然－あるいは兵士に射す光」『みすず』59(6)、2017、15—25.【査読有】

（7） 中村唯史、「ワシリー・グロスマン小論（後）：全一的な世界の終わりとその後－『アヴェル』を読む」『みすず』59(7)、2017、8—19.【査読有】

（8） 貝澤哉、「人文科学方法論の基礎的問題と現代的課題へのアプローチ：G.シペート、M.バフチンの理論的探究を手がかりとして」『東アジアにおける人文学の復興』1(2017)、15—32.【査読無】

（9） 長谷川章、「チェブラーシカはなぜ悲しげなのか－ソ連崩壊以降のソビエト・アニメーション解釈を読みなおす」『秋田大学教育文化学部研究紀要　人文科学・社会科学』73(2018)、69—75.【査読無】

（10） 三浦清美、「時代を映す鏡としての寓話作品『ステファニトとイフニラト』‐歴史と文学のあいだ」『日本18世紀ロシア研究年報』14(2017)、3—15.

（11） 佐藤千登勢、「ロシア革命百周年に寄せて？：『懺悔』と『不思議惑星キン・ザ・ザ』」『ロシア・NIS 調査月報』9-10(2017)、104—107.【査読有】

（12） 佐藤千登勢、「英雄都市の表象：『レニングラード：900日の大包囲戦』と『レニングラード大攻防』」『ロシア・NIS 調査月報』5(2017)、112—116.【査読有】

（13） 村田真一、「M. ツヴェターエヴァのメタファーのドラマトゥルギー：亡命期の戯曲を素材に」【ロシア語】『亡命ロシア文学』1（2016）、97—103.【査読有】

（14） 佐藤千登勢、「新生ロシアに育った子供たち：『夏の終止符』と『ソード・ハンド』」『ロシア・NIS 調査月報』8(2016)、120—123.【査読有】

（15） MIURA Kiyoharu, BOBROV Aleksandr,「メリョートヴォのフレスコ画の文献的源泉」【ロシア語】『中世ロシア文学部門紀要』63（2015）、485—498.【査読有】

（16） 野中進,「『チェヴェングール』に置ける状況の直喩」【ロシア語】『セルビア・スラブ学会論集』87（2015）、199—212.【査読有】

（17） 野中進,「詩とプロパガンダの意味論」【ロシア語】『文学者たちの国：文献学と文学史の諸問題』1（2015）、428—436.【査読有】

（18） 村田真一、「アンドレイ・タルコフスキーにおけるエクフラシスの手法―『ローラーとヴァイオリン』を手がかりに」『ヨーロッパ映画における「ボーダー」』（上智大学ヨーロッパ研究所研究叢書）9（2015）、104—118.【査読有】

（19） 貝澤哉、「アレクセイ・ローセフ『名の哲学』（1927）における「意味」の造形　形相的なものの可視性と彫塑性」『スラヴ研究』61(2014)、27—54.【査読有】

（20） 佐藤千登勢、「サンクトペテルブルグの跳ね橋：『十月』と『ストレート・レーサー』」『ロシア・NIS 調査月報』12(2014)、112—114.【査読有】

（21） 三浦清美、「終末論としてのローマ：「モスクワ第三ローマ」論をめぐって」『中近世ヨーロッパの宗教と政治』1(2014)、158—181.

〔学会発表〕（計 15 件）

（1） Susumu Nonaka, “I. A. Richards’ Theory of Meaning in the Context of Globalization,” Acceptance, Absorption, and Transformation in Languages, Literatures, and Cultures between East Asia and Europe. Taiwan National University, Taipei, 2017/9/29.

（2） Valerij Gretchko, “Between Orient and Occident: Linguistic Diversity and the Creation of a National Language,” Acceptance, Absorption, and Transformation in Languages, Literatures, and Cultures between East Asia and Europe. Taiwan National University, Taipei, 2017/9/29.

（3） Tadashi Nakamura, 「ソヴィエト期のロシア文学における「全一性」という世界観」【原文ロシア語】、世界史におけるロシア語文学、上海師範大学、上海、2017/10/18.

（4） Kiyoharu Miura,「ビザンツの聖愚者とキエフ洞窟修道院のイサアキイ－ビザン

ツと中世ロシア聖愚者の比較研究の試み」【原文ロシア語】、日本ロシア文学会、北海道大学、札幌、2016/10/23.
（5） Susumu Nonaka, 「表現はいかにその形を得て、人を慰めるか―アンドレイ・プラトーノフの手紙の一節から」【原文ロシア語】、ロシア―日本哲学会議、サンクトペテルブルグ大学、サンクトペテルブルグ、2016/9/21.
（6） Valerij Gretchko, “Pluribus in Unum: A. S. Pushkin and the Formation of Russian Literary Language,” Multilingual Philology and National Literatures: Rereading Classical Texts. ルクセンブルク大学、ルクセンブルグ、2016/9/9.
（7） Valerij Gretchko, 「ラマルクの弱点―1920 年代ロシアの政治的・芸術的文脈における遺伝理論」【原文ロシア語】、ユートピアからカタストロフィへ:ソ連の文化実験、ベオグラード大学、ベオグラード、2016/9/1.
（8） Valerij Gretchko, 「芸術の方法としての不完全性―主体の＜格下げ＞というストラテジーとその機能の一節から」【原文ロシア語】、主体のタイプと最新詩におけるその表象、ロシア科学アカデミーロシア語研究所、モスクワ、2016/7/12.
（9） Susumu Nonaka, “Japanese Literature in Post-Soviet Countries,” Foreign Writers and Ukraine, Poltava Pedagogical University, Poltava, 2016/3/15.
（10） Shinichi Murata, 「20 世紀前半のロシアと日本の演劇における引喩の問題」【原文ロシア語】、外国作家とウクライナ、ポルタヴァ教育大学、ポルタヴァ、2016/3/15.
（11） Susumu Nonaka,「戦争と比喩:V. グロスマンのメトニミー的原理」【原文ロシア語】、刻まれた勝利：主形象、概念、イデオロギー素、ロシア科学アカデミーロシア文学研究所、サンクトペテルブルグ、2015/4/30.
（12） Shinichi Murata,「非日常なるものの選択―大岡昇平『捉まるまで』」【原文ロシア語】、刻まれた勝利：主形象、概念、イデオロギー素、ロシア科学アカデミーロシア文学研究所、サンクトペテルブルグ、2015/4/30.
（13） Kiyoharu Miura, “A Study of Awareness of Medieval Russian Authors of Impeachment Documents of Pagan Customs,” International Council for Central and East European Studies, the IX World Congress, Makuhari, 2015/8/8.
（14） Susumu Nonaka, “Tolstoi, Platonov and Other Writers from the Lens of Trope,” International Council for Central and East European Studies, the IX World Congress, Makuhari, 2015/8/7.
（15） Shinichi Murata, “Paradox of the Russian Avant-Garde,” International Council for Central and East European Studies, the IX World Congress, Makuhari, 2015/8/4.

〔図書〕（計 2 件）
（1）Valerij Gretchko, SooHwan Kim, Susumu Nonaka (eds.), Russian Culture Under the Sign of Revolution: Far East, Close Russia: The Evolution of Russian Culture. Vol. 2. Belgrade-Seoul-Saitama: Logos, 2018. 242 p.
（2） Valerij Gretchko, SooHwan Kim, Susumu Nonaka (eds.), Far East, Close Russia: The Evolution of Russian Culture —A View from East Asia. Belgrade-Seoul-Saitama: Logos, 2015. 272 p.

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

○取得状況（計 0 件）

〔その他〕
ホームページ等
以下のホームページで本研究プロジェクトのセミナー、論集について英文で情報を流し、かつ論集の電子テクストを掲載した：
https://nonakasusumu.jimdo.com/

６．研究組織

(1)研究代表者
野中　進（NONAKA, Susumu）
埼玉大学・人文社会科学研究科・教授
研究者番号：60301090

(2)研究分担者
貝澤　哉（KAIZAWA, Hajime）
早稲田大学・文学学術院・教授
研究者番号：30247267

中村　唯史（NAKAMURA, Tadashi）
京都大学・文学研究科・教授
研究者番号：20250962

グレチュコ・ヴァレリー（GRECKO, Valerij）
神戸大学・国際文化学部・講師
研究者番号：50437456

長谷川　章（HASEGAWA, Akira）
秋田大学・教育文化学部・教授
研究者番号：60250867

井上　まどか（INOUE, Madoka）
清泉女子大学・文学部・准教授
研究者番号：70468619

村田　真一（MURATA, Shinichi）
上智大学・外国語学部・教授
研究者番号：00265555

三浦　清美（MIURA, Kiyoharu）
電気通信大学・情報理工学部・教授
研究者番号：20272750

佐藤　千登勢（SATO, Chitose）
法政大学・国際文化学部・准教授
研究者番号：90298109

(3)**連携研究者**
(　　)

(4)**研究協力者**
(　　)